

浜岡原発を見てきました 東海地震プレートの真上に立つ危険



原発サイトを見下ろす展望台で

7月23日、浜松市で開かれていた「第54回自治体学校」終了後、御前崎まで足を延ばして中電浜岡原子力発電所を見学しました。40年ほど前の学生時代に何度か訪れた御前崎ですが、原発建設後の町は様変わりしていました。

原発に隣接するPRセンター

「原子力館」には海拔62メートル

の高さから原発施設全体を見下ろすことができる展望台があります。浜岡砂丘から遠州灘、太平洋の眺めもなかなかのものでした。海側では、津波対策のための21メートルの「防波堤」の工事がすすんでいます。

ちょうどこの日の講演が、かつて東芝で原発を設計していた専門家の渡辺敦雄さんで、「浜岡原発は津波ではなく地震で倒壊するおそれがある。東日本と同規模の地震が来たら、発電所真下で約7メートルのズレが生じて、津波が来る前に倒れる」との話を聞いたばかりでした。いま浜岡は1, 2号機が廃炉、3～5号機が停止していますが、内部に使用済み燃料が約7000本も保管されています。再稼動など、とんでもない話だと思います。

29日に津市であった「原発なくせ三重県民会議」の集会で、元中電労働者の三枝さんが、「当時中電は三重の芦浜と、静岡の浜岡の両方で原発を推進していたが、芦浜は大反対運動にあって断念、賛成派が強かった浜岡に5基も原発が建つことになった」と語りました。芦浜の地元住民は何度も浜岡の見学に招待され、立派な市民病院など「原発マネー」による町の「発展」を見せつけられましたが、それでも反対の姿勢を貫いてきました。どちらが良かったのかは、いま誰の目にも明らかになっています。

国保会計決算、7億円黒字というが

8月9日、国民健康保険運営協議会が開かれ、11年度決算と12年度補正予算が審議されました。11年度決算では、約7億円の黒字との報告がありました。これは良いことだと聞いていたら、次の本年度補正予算で4億円近くの「補助金・交付金の返還」が増額されるとのことです。内容をたずねると、昨年の保険給付費が予定より4億円ほど少なく終わったので、概算で受け取った補助金を翌年に精算して返還することになった、とのこと。

つまり単年度の会計だけ見ても、赤字か黒字かは判断できないということで、昨年度の黒字は7億円ではなく、実質3億円だということです。

人間ドックよりも安い「特定健診」

また決算の中で保健事業が予定人数に達してないことについて聞くと、「人間ドックの代わりに、特定健診（いわゆるメタボ健診）とがん検診を組み合わせる人が増えている」との回答。医師会委員の西城先生が「人間ドックの負担金が8000円、特定健診とがん検診を合わせても4000～5000円と安くなる。できれば人間ドックの費用を下げていただきたい」と発言されました。

市が行なう同じような健診の本人負担が、2倍もの差があることは問題です。負担額を引き下げて受診者をもっと多くするようにすべきです。早期発見・早期治療により、結果として医療費の引き下げにつながるのですから。

上水道事業、黒字基調いつまでか？

7月25日、産業建設委員会で上水道事業や道路事業、公共交通などについて調査しました。そのうち、上水道については今年度「水道ビジョン」計画の見直しを行なう「中間検証委員会」が発足しています。今後、主要な送水・配水施設の更新・新設事業が多く続きますが、その財源は市民の払う水道料金です。これからの事業にかかる費用を、水道料金収入でまかなえるかどうかの見通しが問題になってきます。

水道局から出された財政計画を見ると、現在黒字の収益的収支が、今年から来年にかけて赤字に転換、平成28年度には剰余金もなくなり、29年度には債務超過になる見通しだとされています。このとおりならば、もう来年に

は料金引き上げの検討を始めなければなりません。

私はこの財政収支計画の中の、毎年20～30億円予定される建設改良事業費について、「これまでの工事入札の実績を見ると、ほとんどが最低制限価格で落札している。実際には予定費用より2～3割少なくすむのでは？」と聞きました。水道局は「この計画は、予定価格で計上したもので、いちばんきびしいシナリオです。」と、私の指摘を認めました。今のような低価格の工事契約が続けば、財政的には毎年、何億円もの費用が助かることとなります。したがって、数年の内に水道料金の引き上げという事態は、たぶん回避できるのではないかと、私は思っています。

鈴峰消防団が全国操法大会出場に

7月21日、県消防学校で開かれた三重県消防操法大会に、鈴鹿市代表として出場した鈴峰分団チームは、みごと優勝という成績を上げ、10月に東京で開かれる全国大会に県代表として出場することになりました。

当日は雨模様の日でしたが、第1番の鈴峰分団の演技の時はうまく晴れて、ラッキーでした。運だけでなく、春からの連日のきびしい訓練の積み重ねがあつての優勝です。鈴鹿市として初めての全国大会出場ということで、市としても必要な費用を9月補正予算に計上します。ぜひ良い成績をあげるように応援したいと思います。



優勝報告会での鈴峰分団チーム

ラジオ体操は究極のエクササイズ

8月4日早朝に、江島スポーツ公園でNHK巡回ラジオ体操会が行なわれました。私たちの西部地区はサブ会場として、鈴峰中学校グラウンドに多くの住民が集まって、ラジオの音楽に合わせて体操をしました。

先月、いま評判の「大人のラジオ体操」DVD付きを買いましたが、その解説に従って一つ一つの動作を真剣にやってみると、気分爽快です。わずか3分ほどの1曲の中に必要な運動がきちんと組み込まれていて、科学的にもその効果が証明されています。

これを学校できちんと教えてもらった記憶がありません。今の子どもたちを見ても、グニャグニャしているだけで、もったいないと思います。

ずいそう



「さもしい」人たち

ロンドンオリンピックが終わったが、久しぶりにスポーツをまとめて観戦することができ、日本選手の活躍する試合にも感動した。日本選手だけでなく、どの国の選手も勝利や記録をめざして懸命にたたかい、そして結果をたたえあっていた。背後に商業主義などが見え隠れしているとしても、競技に参加する選手たちが持つものは「実力」のみである。それもきちんとルールに従って発揮され、そのルールは誰にも平等に適用される。だから、見ている我々は清清しさを感じるのである。

一方、オリンピックと並行して国会で行なわれていた消費税増税のゴリ押しと、野田内閣不信任をめぐる右往左往は、見るのもウンザリの醜態であった。スポーツの試合なら、とっくにレッドカードが出て退場を命じられているはずの連中が、メダルを取ったような顔をしていて、不愉快きわまりない。この夏のオリンピックと国会は、まったく対照的なものであった。

「さもしい」に対抗する「正義」について考える

こういう不道德な連中をどう表現すべきかと考えながら本屋に行ったら、「さもしい人間」（伊藤恭彦著）というタイトルの本に出会った。そうだ、この「さもしい」という言い方がピッタリだと思った。広辞苑を引くと、見苦しい、みすぼらしい、いやしい、卑劣である、心がきたない、となっている。このごろの多くの政治家のように、自分がした約束を守らない、きのう言ったことを平気でひっくり返す、強そうなところにすり寄る、そしてそれを恥ずかしいとも思わない、こういう人間にふさわしい言葉だ。

しかし著者の伊藤氏は、「さもしい」人を非難するだけでなく、そんな人間を生み出す社会の構造、他者を食い物にして利益を得る構造を改革しようとして問題提起し、その規範を「正義」という言葉で語っている。「本当は『さもしい』わけではない人間を『さもしく』させてしまう、この社会の仕組みを変えること、これが正義の課題だ。それは私たちを翻弄する市場社会を少しずつ人間的なものにしていくことである。」「正義を考えるためには、今この瞬間に苦しんでいる人たちに思いを馳せることが必要だ。」そして、それが出来ない人を「さもしい」と呼ぶのである。